



Corporate Report

コーポレートレポート 2018

日産車体株式会社
日産車体九州株式会社



おかげさまで設立70周年、
これからもお客さまに魅力ある
質の高いクルマとサービスを、
タイムリーにお届けします。

代表取締役 兼 社長執行役員
木村 昌平

2019年4月、日産車体は70周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに、お客さまをはじめ、多くの関係者のご支援の賜物と、感謝申し上げます。

日産車体は、1949年、鉄道車両および自動車の車体製作メーカーとしてスタートし、1951年より日産グループの一員として、神奈川県湘南地区および京都府宇治市においてその歩みを重ねてまいりました。2000年には湘南地区に量産車種の生産を集約しました。そして、2007年には、将来にわたっての事業基盤を確立するため、新たに日産車体九州株式会社を設立し、2010年1月より、九州での新工場の稼働を開始いたしました。

日産車体では、湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点をもち、湘南工場では、「NV150AD」、「NV200パネット」をはじめとしたLCV(小型商用車)やフレーム車の「パトロール(Y61)」など6車種を生産し、日産車体九州では、ミニバンの「エルグランド」、大型SUVの「アルマーダ」、そしてLCVの「NV350キャラバン」などの5車種を生産しています。

LCV・フレーム車の開発・生産においては独自のノウハウを持ち日産グループのLCV・フレーム車の開発・生産支援をグローバルで担っています。LCVの「NV200」は、湘南工場をマザー工場として、中国やスペイン、インドネシアなど、世界各地の生産拠点へノウハウを展開し、支援を行ってまいりました。

また、商品の競争力向上のため、20年ぶりにパラメディックをフルモデルチェンジ。基準車両をエルグランド(E50)からNV350キャラバン(E26)とし、緊急活動における使いやすさ、走行性能などを一新しました。生産台数と売上の拡大については、重点地域である中近東に加え、アフリカ・ASEAN諸国への活動展開に取り組んでおり、この活動をさらに拡大してまいります。

特装車の開発・生産においては、お客さまとの直接対話により、市場調査に基づくタイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援など、多様なニーズに応える当社独自の活動を一層強化し、開発・生産が一体となって質の高い魅力ある商品づくりに取り組むことで、生産台数の拡大を目指しています。

ここ数年の日本の自動車メーカーの動きを見ますと、より生産コストの安い新興国や、輸送コストのかからない現地での生産など、海外生産の拡大が続いております。また、技術面では、安全、環境、利便性などへの技術革新が一層加速しており、それらに確実に対応できる技術力が強く求められ、当社の強みであるモノづくり一貫体制を更に磨いていくことや、グローバルで必要とされる明確なコア技術を確立していくことが一層重要な課題となります。

これらの現状から、当社は、2017年度からスタートした、2017-2022中期経営計画において、「LCV・Frame 車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、将来にわたる強靱な企業基盤を確立する」ことを基本方針とし、「商品」「工場」「技術・技能」を3つの柱として競争力強化に取り組んでおります。

今後とも、お客さまにご満足いただき、安心してお乗りいただけるよう、安全で環境に優しく、高品質なクルマづくりに、誠心誠意努めてまいります。

2019年6月

3つの
重点課題を
中期経営計画の柱とする
企業基盤強化への
取り組み

商品の競争力

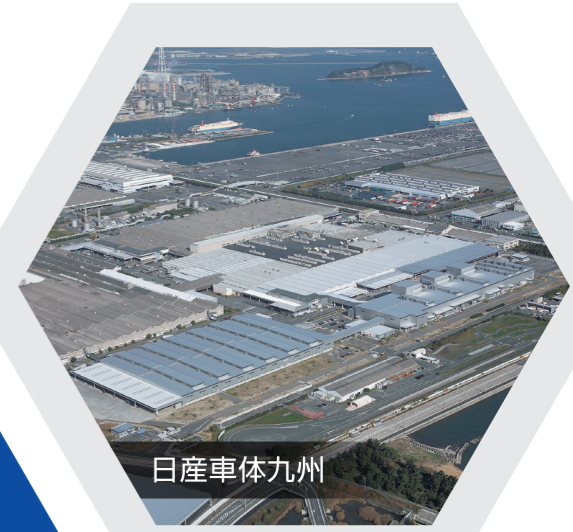
魅力ある商品による
生産台数と売上の拡大

技術・技能の競争力

LCV・Frame車モノづくり
グローバル技術拠点の実現

工場の競争力

品質 No.1
お客さまから信頼される工場



日産車体九州



湘南工場

3つの競争力を高め、社会に対し真に価値ある商品・サービスを提供し続けます

日産自動車

ビジョン 日産：人々の生活を豊かに

中期計画

Nissan
M.O.V.E.
to 2022

日産自動車は、中期計画「日産M.O.V.E to 2022」を策定し、6年間で持続可能な成長を実現し、新技術とビジネスの両面で自動車産業をリードしていくことを目指しています。

サステナビリティ



日産自動車は、中期計画の一環としてサステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を定めています。その中で、日産の取り組みを明確にし、企業としての持続可能な成長を目指すとともに、社会の持続可能な発展に貢献する取り組みについてあらためて示しています。

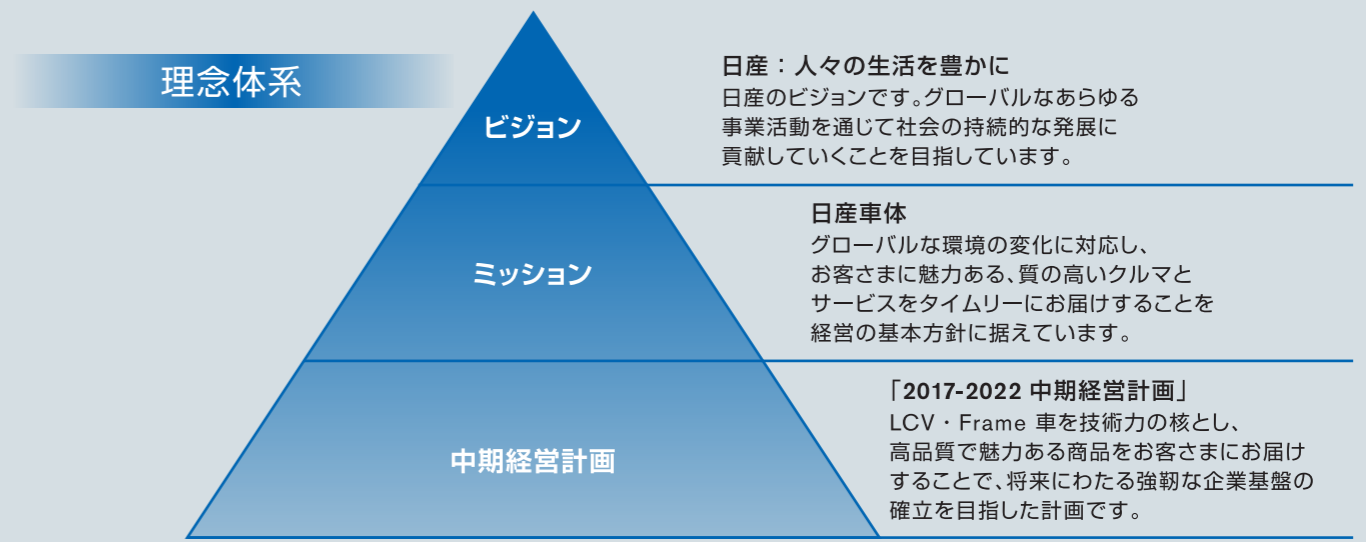
日産車体

我々の原点は、日本のモノづくりにあります。

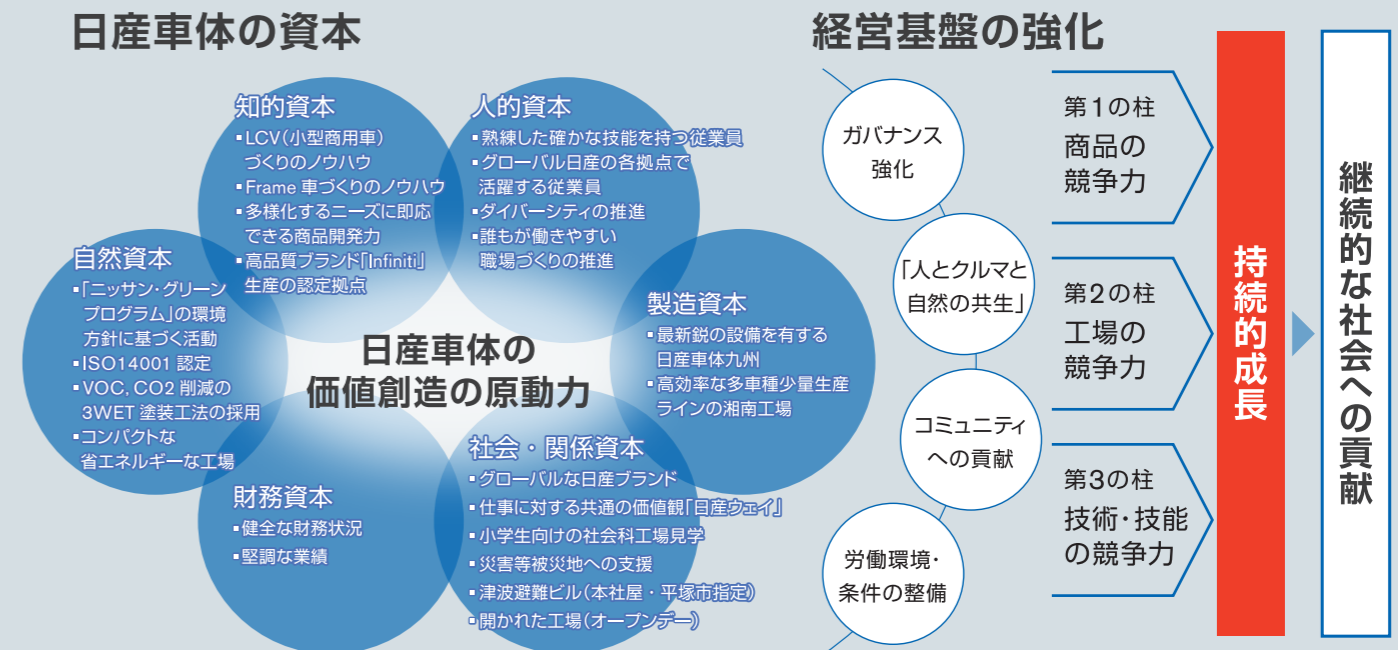
日産車体は、主にLCVとフレーム車を生産する完成車メーカーとして、日産グループの一翼を担っています。現在、自動車産業は、環境問題や所有からシェアへと移り変わる社会トレンド、急速な技術革新など対応すべき多くの課題に取り組んでいます。自動車産業は、世界の国々・地域で今後もますます必要とされる分野であり、成長が期待されています。日産車体は、このような環境の中で日産グループのビジョンのもと、当社独自のコア技術を磨き、革新的な車を開発・生産していきます。我々の原点はモノづくりにあり、この原点を基に社会への価値を創造していきます。

取り巻く課題

- 地球持続性の危機
- 複雑化する社会課題
- 価値観の多様化
- 加速する技術革新



プロセス



温暖化・エネルギー問題、人権・格差、価値観の多様化や技術革新など、私たちの置かれている環境は、大きな変革の時代にあります。自動車産業は、その中で先頭を走り、社会に与える影響も大きなものがあります。当社グループは、このような重要な責務を負う産業の一員として持てる資本を最大限に生かし社会課題の解決に取り組んでいきます。

日産車体は、長期的価値創造において持続可能な経営基盤の構築に努め、社会と共創・共生するビジネスモデルを形作り出すことに取り組んでいます。この取り組みの下、当社の持続的成長を担保する3つの競争力を高め、社会に対し真に価値ある商品・サービスを提供し続けます。

お客さまとの直接対話で 魅力ある商品づくりに挑み続ける

日産車体では、お客さまに常に魅力的な商品を提供し続けるため、開発・生産が一体となった商品力強化を推進しています。そして、量産車とともに、さまざまな特装車の同時開発・生産にも取り組み、お客さまの多様なニーズにいち早く応えています。

豊富なバリエーションを展開する本格商用バン「NV350キャラバン」は、発売以来、先進装備、燃費性能、デザイン、グレードの追加など、継続した商品力強化で、国内のみならず海外でも高く評価されています。

中東湾岸諸国を中心に、アフリカやASEAN地域でも台数を伸ばす「パトロール:Y61、Y62」「パトロール ピックアップ」は、現地のお客さまや販売会社とのダイレクトコミュニケーションを図ることで、新たなニーズの発掘を進めています。

ほかにも次世代タクシー「NV200タクシー」のLPガス燃料への対応や、積雪や凍結の多い地域に向けた「NV200バネット」の4WD設定など、市場要望に幅広く対応し、着実に台数の拡大につなげています。

また、妥協のない品質確保への取り組みにより、プレミアムブランドの「Infiniti QX80」や北米向けSUV「アルマーダ」は、世界的な市場調査、現地の自動車ジャーナリスト協会などから多数の

栄誉をいただいています。

今後もお客さまとの直接対話を軸に、市場調査に基づくタイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援など、多様なニーズに応える当社独自の活動を一層強化し、質の高い魅力ある商品づくりに挑み続けます。



生産台数と売上拡大に貢献する 「NV350キャラバン」特装車

「NV350キャラバン」特装車は、基準開発段階での特装要件の織り込みや、量産車と同じラインで架装するインライン特装への取り組みなど、日産車体にしかできないさまざまな取り組みによって生まれた製品です。先進の安全性、機能性、利便性など、お客さまのニーズに「素早く」「正確に」応えながら、豊富なバリエーションを展開しています。

特装はグループ会社のオートワークス京都が担い、ラインナップは「幼児車」「リフター付きバン」「冷蔵バン」「送迎車」など多岐にわたっています。



- ① 現地に赴いて動力性能および走行性能テストを実施する「パトロール:Y62」「パトロールピックアップ」
- ② ゆとりの客室&荷室スペースを備えたNV200タクシー
- ③ UAE アブダビ首長国の政府機関アブダビポリスを表敬訪問。ダイレクトコミュニケーションで商品に関する要望を確認
- ④ TOKYO MOTOR SHOW 2017の日産車体ブース。中央には次期型高規格救急車「日産パラメディックコンセプト」を展示
- ⑤ 熱電対(工業的に広く用いられている中高温領域の温度センサー)取り付け作業。極熱地域や極寒地域などさまざまな市場環境を再現

工場の競争力

強みであるモノづくり一貫体制で揺るぎない「品質 No.1」を

日産車体には湘南工場、日産車体九州の2つの生産拠があります。

湘南工場は効率的で柔軟なモノづくりを特長とし、長年にわたる研鑽で積み上げた独自の技術を生かし、「NV150AD」や「NV200バネット」などのLCV(小型商用車)やフレーム車の「パトロール:Y61」など6車種を生産しています。

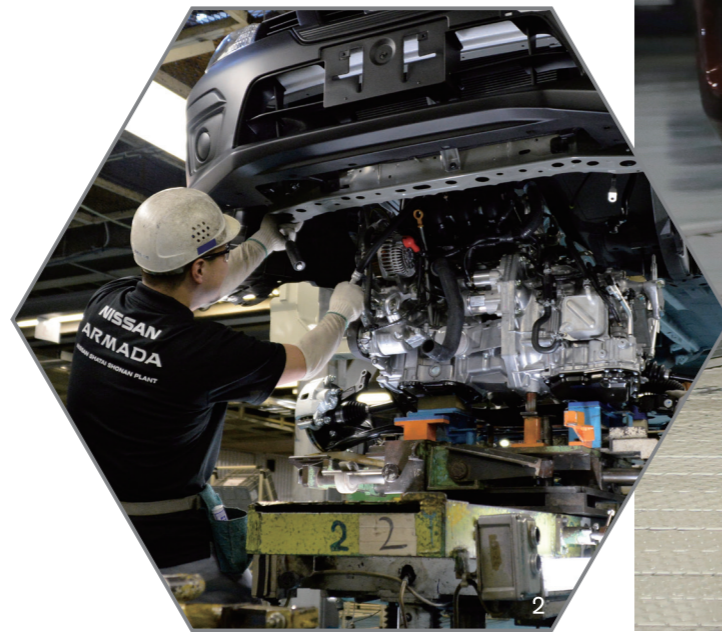
日産車体九州は最新鋭の設備で年間12万台の生産能力を持つ工場です。プレミアムブランド車の「Infiniti QX80」、ミニバンの「エルグランド」、LCVの「NV350キャラバン」など5車種を生産しています。

2つの工場は、品質の高いクルマを効率的に生産し、短い納期でお客様にお届けする「アライアンス生産方式(Alliance Production Way=APW)」を取り入れ、また、モノコック車(枠組みとボディが一体で構成されるクルマ。乗用車、商用バン)とフレーム車(頑丈なフレームの上にボディを載せて組み付けるクルマ。SUV、トラックなど)という基本構造の異なる車種を一つのラインでつくる多車種混流生産を行っています。

工場をしっかりと支えるのが、当社の強みであるモノづくり一貫体制です。日産車体には設計や試作車の制作などを行う開発部門、生産設備を設計・製作する工機部門、あらゆる面からクルマを

チェックする実験設備があり、開発から生産、品質管理までを一貫して行っています。このモノづくり一貫体制を活かし、九州と湘南、それぞれの優れた生産システムを共有。2017年にはSUV「アルマーダ」の湘南工場での短期生産立ち上げを実現し、日産車体九州との並行生産を開始しています。

今後も体制をさらに強化して競争力を高め、圧倒的な品質でお客様に信頼される工場を目指していきます。



厳しい品質基準をクリア

「Infiniti 4.5」認定を取得する日産車体九州

日産車体九州ではプレミアムブランド車「Infiniti QX80」を生産しています。プレミアムブランドである「Infiniti」には、「Infiniti 4.5」認定という厳しい品質基準が設けられています。

日産車体九州では、ゼブラ照明塗装検査ラインでの塗装品質確認や四輪加振試験による音振確認を、生産するすべてのクルマに実施し、妥協のない検査品質を堅守。さらに各工程を担う熟練した従業員たちの確かな技能の結集により、インフィニティブランドの品質確保に努め、世界的な市場調査においてもトップ品質を獲得しています。



- ①フレーム車とモノコック車の混流生産ライン(日産車体九州)
- ②エンジン取り付け工程。質の高いクルマをコンパクトなラインで効率良く生産(湘南工場)
- ③トップマネジメントが参加する工場のラインワークで妥協のない品質を確保(日産車体九州)
- ④開発、生産技術、生産が一丸となり、高品質のモノづくりを追究(湘南工場)
- ⑤品質改善に向け実施されるレビュー(開発部門)

LCV・フレーム車のモノづくりを強化 技術・技能両面からグローバルをリード

日産車体はLCVとフレーム車のモノづくりにおいて、グローバル日産の中で中心的な役割を担っています。

当社が開発し、湘南工場をマザー工場とする「NV200」においては、中国やスペインなど世界各地の生産拠点へ、その開発・購買・生産のノウハウを展開し支援を行いました。

フレーム車では、タイのピックアップトラック「NP300ナバラ」や中国のピックアップトラック「ナバラ」、SUV「テラ」など、海外工場での生産立ち上げを支援。ほかにもさまざまなLCVとフレーム車の開発や生産に、多くの日産車体のエンジニアが携わっています。

当社では、これまで培ってきたLCVとフレーム車の技術をさらに深化させ、コア技術として確立していく活動を進めています。開発部門では新世代フレーム車を中心とするモノづくり技術の強化や先進ITS*技術の適用などを進め、また、生産部門では「人にやさしいライン」を目指し、当社独自のモノづくりプロセスに焦点を当てた計画的な取り組みを始めています。

人材育成面でも、既存の教育体系をベースにフレーム技術育成プログラムを構築し、エンジニアの育成と技術力保有者の充足を推進しています。また、海外への出張、駐在などによる経験の場を

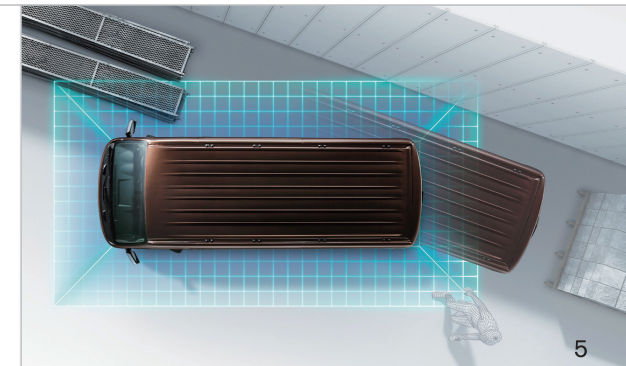
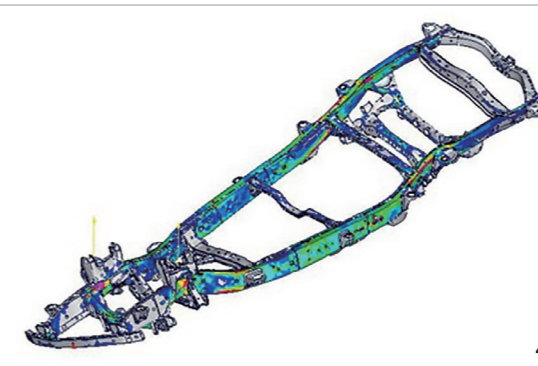
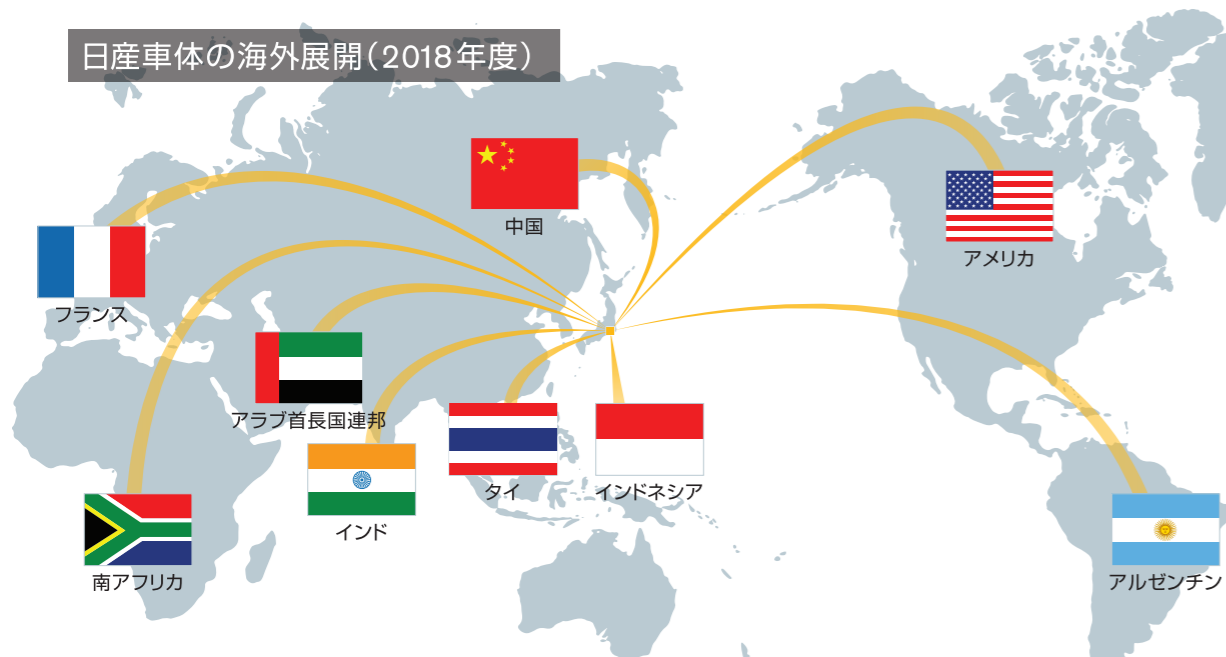
増やすなど、海外拠点との連携や交流を深める取り組みに力を入れています。

今後も生産・開発支援やグローバル化への経験を積み重ね、「LCV・フレーム車グローバル技術拠点」となることを目指していきます。

*ITS: Intelligent Transport Systems
高度道路交通システム



日産車体の海外展開(2018年度)



- ① 湘南工場のフレーム車生産ライン
- ② 中国での新車立ち上げプロジェクト。現地スタッフと治具を調整
- ③ 海外の新車立ち上げに尽力する日産車体エンジニア
- ④ フレームの設計検討用CAE解析画像
- ⑤ 先進安全装備AVM(アラウンドビューモニター)。駐車時にミラーに目を移すだけで上空から見下ろしているような自車の映像と後方の両方を確認できる日産車体が開発した技術

社会との共生を図り、持続的成長に向けた経営基盤の強化に取り組んでいます

ガバナンス 経営の透明性と業務の適正の維持を図り、ガバナンスの強化に努める

当社グループは、企業価値を継続的に向上させるために、経営陣の説明責任を明確にし、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに向けた適時適切な情報開示を行うこと及び内部統制システムの整備により、業務の適正と経営の透明性を維持することが重要であると考えています。この考えのもと、コーポレートガバナンス・コードの各原則を踏まえ、コーポレートガバナンスの一層の充実を図っています。

コンプライアンス

コンプライアンスについては、会社の中長期的な企業価値向上に直結する問題として、取り組みを強化しています。その一環として、社内外に情報提供を可能とする内部通報制度を導入し、問題の早期発見と是正に努めています。特に行動規範に抵触すると思われる事項の報告を受けた場合は、直ちに当社の「コンプライアンス委員会」もしくは当社グループ会社の「コンプライアンス委員会」において速やかに対策を審議し実行に移します。

2017年9月の完成検査に係る不適切な取扱いや本年7月の排出ガス測定に関する不適切な行為などを受け、コンプライアンスやガバナンスの一層の強化が当社グループにとって重要な経営課題となっています。現在、事業のあらゆる面における法令遵守の状況について、自主点検を行っております。今後も、法令遵守に関する仕組み・体制・プロセスの総点検と改善を全社的な活動として進めるとともに法令遵守意識の向上を図っていきます。

リスク管理

当社グループは、事業の継続を阻害する事項や、ステークホルダーの安全・安心を脅かすリスクをいち早く察知・評価して必要な対策を検討・実行することにより、発生の未然防止に努めるとともに、万一発生した場合の被害の最小化や再発防止に努めています。リスク管理の推進にあたっては、当社取締役社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置するとともに、特に当社の主要なリスクである環境・品質・安全等については、それぞれの専門委員会や会議を定期的開催するとともに規程・基準・マニュアル等を整備し、その教育等を通じて周知・徹底に取り組んでいます。

社会との共生 地域社会との交流を積極的に行い、社会と共生できる企業を目指す

地域社会との交流を積極的に行い、湘南工場では地元平塚を中心に年間2万人を超える小学生の社会科見学を受け入れています。また、地域住民の方もご参加いただける企業祭の開催や地域イベントへの協賛・出展など地域に根ざした活動を継続して行っています。平塚市にある本社ビル屋上は、平塚市指定の津波避難場所として、有事の際は地域の皆様の避難場所としていつでもご利用いただけるよう、24時間開放しております。



工場見学受け入れ



企業祭(オープンデー)



津波避難ビル(本社屋)

環境 自動車産業の使命として環境にやさしいクルマづくりに積極的に取り組む

地球環境を守り、次世代に引き継ぐことを目指し、世界中で環境保全活動が行われています。私たち日産グループでも日産の環境理念である「人とクルマと自然の共生」を実現するために、さまざまな取り組みを行っています。例えば、「リサイクル設計ガイドライン」に基づいてクルマを設計することにより、リサイクル性を向上しています。また、「エルグランド」や「NV200パネット」など多くの車種で、「低排出ガス車(SU-LEV)」の認定を得ています。そして、日産車体九州の新工場では、新塗装技術を採用することにより、CO2排出量やVOC排出量を低減し、日産グループ工場の中でもトップレベルの水準を誇る「人と環境に優しい工場」を実現しています。

日産グループ環境理念
人とクルマと自然の共生
日産車体環境理念

当社は環境保全に対する重要性を認識し、人から社会、自然にやさしいクルマづくりに努め、地域環境の保全と豊かな社会の発展に貢献します。



3WET塗装



環境事故対応訓練

職場／人材 人を大切にする「働き方改革」を推し進める

当社グループの中期経営計画においては、基盤となる取り組みとしてダイバーシティ活動を位置づけています。「働く人すべてが、その能力を十分に発揮できる会社となること」を基本方針として、育児や介護を行う者だけでなく、従業員全員が健やかな生活を送ることで、業務効率上がり成果が出せるよう、継続して取り組んでいます。これらの取り組みが評価され、次世代育成支援対策推進法による、通称「くるみん認定」を平塚市内の従業員300名以上の企業として初めて取得しています。また、経済産業省による「健康経営優良法人2019(ホワイト500)」として顕彰、認証されました。



健康経営優良法人2019 (ホワイト500)



くるみん マーク



やりがいをもって働ける社内風土の情勢



女性も働きやすい職場づくり推進

日産車体株式会社の概要

最先端の設備と技術

当社には、「開発」から「生産」、「品質保証」までを一貫して行うために、主要な3つの拠点があります。神奈川県平塚市堤町の「本社・湘南工場」と、平塚市大神のテクノセンター

および、秦野市の秦野事業所を中心とした「開発」部門です。私たちは互いに連携を取り合いながら、お客さまにご満足いただける商品を提供するために、日々努力しています。



■本社・湘南工場

本社機能と車体溶接、塗装、組立などの「工場」および物流基地からなる「生産」部門を擁する、当社の最大拠点です。



■テクノセンター

テクノセンターは、設計、試作車の製作などを行う当社「開発」部門の中心であり、生産設備を設計・製作する「工機」部門の拠点でもあります。



■秦野事業所

秦野市にある秦野事業所には、テストコースや実験設備があり、車体の強度、耐久性など、クルマをあらゆる面からチェックする厳しいテストを行っています。

会社データ

社名	日産車体株式会社
創業	1941年7月1日
設立	1949年4月1日
資本金	79億4千万円
従業員数	1,797名(2019年3月31日現在)
事業内容	各自動車の開発から品質保証まで
URL	https://www.nissan-shatai.co.jp

主な事業所所在地

- 本社・湘南工場
〒254-8610 神奈川県平塚市堤町2番1号
電話:0463-21-8001
- テクノセンター(開発部門)
〒254-0012 神奈川県平塚市大神2909番地
電話:0463-21-8305
- 秦野事業所
〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下233番地
電話:0463-87-2972

取締役・執行役員・監査役・理事

取締役		執行役員		理事	
代表取締役	木村 昌平	社長執行役員	木村 昌平	理事	内海 嘉則
取締役	馬淵 雄一	専務執行役員	馬淵 雄一	理事	小林 弘和
取締役	大塚 裕之	専務執行役員	大塚 裕之	理事	興津 学
取締役	小滝 晋	専務執行役員	小滝 晋	理事	渡辺 昌也
取締役(独立・社外)	市川 誠一郎	常務執行役員	牛込 正明	理事	佐藤 曜佐
取締役(独立・社外)	今井 雅之	常務執行役員	中西 弘幸	理事	工藤 太
		常務執行役員	高木 昌弘	理事	鈴木 渉
監査役		品質担当アドバイザー			
監査役	浜地 利勝		崎田 有三		
監査役(社外)	池田 鉄伸				
監査役(独立・社外・非常勤)	井上 泉				

日産車体九州株式会社の概要

最新鋭の工場で高品質なクルマを生産

日産車体九州は2010年1月に本格稼働したグローバル日産の最新技術を採用した工場です。多くの自動車・部品メーカーが進出し、また目覚ましい発展を続けるアジア地域との物流メリットが大きい北九州地区に立地しています。

日産車体九州は、日産自動車九州工場内に位置し、車体館、塗装館、組立館、そして日産車体九州の本社機能を持つ事務棟から成り立っています。

この工場はルノー・日産アライアンス生産方式(APW)を取り入れ、インフィニティブランドをはじめとする高級車の品質に対応し、徹底した効率化が図られ、トップレベルに短縮された生産リードタイムを誇っています。

また、コンパクトカーから大型高級ミニバンまで生産可能な、最新鋭の多車種混流生産ラインと人と環境に優しい工場を特長としています。



■車体館



ローラーヘミングラインの導入などにより精度の高い車体骨格をつくります。また、ロボットによるボンネットやドアといった重量部品の自動組み付け、AGVで車体や部品を運ぶなど、フレキシブルでコンパクトな生産ラインを特長としています。

■組立館



フレーム車とモノコック車の混流が可能な進化した車両組立ラインを実現しています。ファイナル工程で全車を加振試験するなど、高級車にふさわしい高い品質を実現しています。また、作業者の負担を軽減する助力装置を採用するなど、人に優しい工場となっています。

■塗装館



新塗装技術である3WET塗装により、環境への対応と高級車へ適用ができる塗装品質を実現しました。さらに、工場内のクリーン化や自動外観検査装置の採用などにより、高品質な塗装を実現しています。



ロボットによるドアの自動組み付け工程(車体)



ロボットによる塗装面の品質チェック(塗装)



助力装置を使った重量部品の組み付け(組立)



ファイナル検査工程の四輪加振機

会社データ

社名 日産車体九州株式会社
 設立 2007年5月10日
 資本金 10百万円(日産車体(株)出資比率100%)
 従業員数 1,046名(2019年3月31日現在)
 事業内容 自動車およびその部分品の製造・販売
 U R L <https://www.nissan-shatai.co.jp/nissan-shatai-kyushu>

事業所所在地

■本社
 〒800-0321 福岡県京都郡刈田町新浜町1番地3
 電話:093-434-9645

取締役・監査役

取締役
 代表取締役 社長(非常勤) 木村 昌平
 取締役 工場長 高木 昌弘
 取締役(非常勤) 東 俊明
 取締役(非常勤) 小林 弘和

監査役
 監査役(非常勤) 高山 渉
 監査役(非常勤) 浜地 利勝

生産車



2018年度 日産圏の国内市場
初期品質評価でTOP3を獲得

NV150ADが1位、NV200バネットが2位、
F24アトラスが3位となり、当社製品が
TOP3を獲得



2017年5月、
新型NV350キャラバン 生産開始

エクステリアの変更と、自動ブレーキをバン全車に採用、
インテリジェントアラウンドビューモニターを搭載



2017年7月、
新型インフィニティQX80 生産開始

エクステリアの変更と、最新ナビゲーションを採用、
インテリジェントリアビューミラーを搭載



■湘南工場



NV200
VANETTE
NV200バネット



NV150
AD



ARMADA
アルマーダ



NV200
NV200タクシー



PATROL
パトロール:Y61



PATROL PICKUP
パトロールピックアップ

■日産車体九州



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール:Y62



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



NV350
CARAVAN
NV350キャラバン

■オートワークス京都



CIVILIAN
シビリアン




ATLAS
アトラスF24

※日産車体九州株式会社は、ミニバン、SUV等を製造している日産車体株式会社のグループ会社です。
株式会社オートワークス京都は、マイクロバスとトラックを製造している日産車体株式会社のグループ会社です。

歴史

- 2016 6 北米向けSUV「新型アルマーダ」生産開始  アルマーダ
- 2015 6 日産の新世代タクシー「NV200タクシー(M20)」量産開始  NV200タクシー(M20)
- 2014 3 新本館の竣工式を実施、湘南地区の再編を完了
- 2013 12 大和インベスター・リレーションズ「インターネットIR表彰 最優秀賞」、日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング 最優秀サイト」受賞
- 8 「NV200バネットタクシー LPGバイフューエル」を発売
- 7 湘南工場第1地区土地の譲渡を決定
- 2012 12 第4地区の生産車を第2地区へ集約し湘南工場の車両生産体制の再編を完了
- 05 NV350キャラバン(E26)生産開始  NV350キャラバン(E26)
- 02 湘南工場第1地区での車両生産を終了
- 2011 05 バトロール ピックアップ(UY61)生産開始
- 05 当社が開発したNV200、ニューヨーク市の次世代タクシーに選定
- 03 東日本大震災の影響から湘南工場、日産車体九州が一時的に操業を停止
- 03 アトラス(F24)生産開始  アトラス(F24)
- 2010 12 NV200バネットタクシー発売
- 12 クエスト(RE52)生産開始  クエスト(RE52)
- 11 日産車体が開発し、日産車体九州(株)が採用した新塗装技術「3-WET工法」が「日経地球環境技術賞 優秀賞」を受賞
- 07 エルグランド(E52)生産開始  エルグランド(E52)
- 04 INFINITI QX56(Z62)生産開始  INFINITI QX56(Z62)
- 01 バトロール(Y62)生産開始  バトロール(Y62)
- 01 「日産車体九州(株)」稼働開始
- 2009 05 NV200バネット(M20)生産開始  NV200バネット(M20)
- 04 「日産車体九州(株)」竣工
- 04 創立60周年を迎える

- 2008 05 サガミ・メンテナンス(株)を「日産車体エンジニアリング(株)」に社名変更
- 04 「日産車体マニュファクチャリング(株)」を設立
- 2007 11 (財)日本科学技術連盟から日本品質奨励賞、品質革新賞受賞
- 10 生産累計1,500万台達成
- 05 「日産車体九州(株)」を設立  AD/ADエキスパート(VY12)
- 2006 12 AD/ADエキスパート(VY12)生産開始
- 01 (社)環境情報科学センターからPRTR優秀賞、審査員特別賞受賞
- 2005 11 ウイングロード(Y12)生産開始  ウイングロード(Y12)
- 05 セレナ(C25)生産開始
- 2004 11 平成16年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞
- 04 湘南工場、秦野事業所、京都分室国際品質基準ISO9001:2000認証へ更新
- 2002 12 INFINITI FX35/45(S50)(北米向け)生産開始  INFINITI FX35/45(S50)
- 05 エルグランド(E51)生産開始
- 2001 04 キャラバン(E25)生産開始  キャラバン(E25)
- 04 (株)オートワークス京都を設立しマイクロバスの生産を移管
- 1999 12 商品開発部門国際環境基準ISO14001認証を取得
- 10 秦野事業所に5,800tトランスファープレス機完成
- 05 ウイングロード(Y11)生産開始  ウイングロード(Y11)
- 04 創立50周年を迎える
- 02 シベリアン(W41)生産開始  シベリアン(W41)
- 1998 11 リパティ(M12)生産開始  シベリアン(W41)
- 10 パラメディック(GE50)生産開始
- 08 アベニール(W11)生産開始  アベニール(W11)
- 01 湘南・京都工場国際環境基準ISO14001認証を取得

- 1997 10 サファリ(Y61)生産開始  サファリ(Y61)
- 05 エルグランド(E50)生産開始
- 01 ピックアップ(D22)生産開始
- 1996 08 3D-CADシステム導入
- 1995 04 湘南・京都工場国際品質基準ISO9002認証を取得
- 1993 07 クルー(K30)生産開始  クルー(K30)
- 06 (社)日本能率協会から京都工場は、TP賞(総合生産性優秀賞)受賞
- 1992 06 生産累計1,000万台達成
- 1991 06 セドリックセダン(Y31)生産開始  セドリックセダン(Y31)
- 1990 12 資本金79億400万円となる
- 1989 07 フェアレディZ(Z32)生産開始  フェアレディZ(Z32)
- 01 エスカルゴ(G20)生産開始
- 1985 03 フェアレディシリーズ累計輸出台数100万台達成
- 1984 02 フェアレディZ生産累計100万台達成
- 1983 09 フェアレディZ(Z31)生産開始  フェアレディZ(Z31)
- 1982 08 ブレーリー(M10)生産開始  ブレーリー(M10)
- 07 シベリアン(W40)生産開始
- 1980 08 生産累計500万台達成
- 1978 11 秦野事業所開設
- 08 フェアレディZ(S130)生産開始  フェアレディZ(S130)
- 03 フェアレディZ生産累計50万台達成
- 1972 12 キャラバン(E20)生産開始  キャラバン(E20)
- 1971 06 日産車体(株)と改称
- 1970 12 資本金48億円に増資
- 1969 10 フェアレディZ(S30)生産開始
- 03 京都新工場完成

- 1965 06 平塚第2地区新工場完成  フェアレディ(SP310)
- 1963 09 フェアレディ(SP310)生産開始
- 1962 11 資本金15億5,000万円に逐次増資
- 01 日産車体工機(株)と改称
- 1961 10 株式を東京・大阪証券取引所第一部に上場
- 1960 11 キャブオールマイクロバス(GC140)生産開始(京都工場)
- 02 全長115mのシャシコンペヤーライン稼働
- 1959 10 資本金3億3,000万円に増資
- 1956 04 ダットサンピックアップ(U123)生産開始(京都工場)
- 1951 09 ニッサンパトロール(4W60)生産開始(平塚工場)
- 06 日産自動車(株)と提携
- 1949 04 新日国工業(株)設立、資本金1億円、鉄道車両および自動車車体製作の事業を継承
- 1947 07 わが国初の超大型トレーラーバス(T11B25)完成  超大型トレーラーバス(T11B25)
- 05 戦災復旧電車、都電(6000)第1号完成(平塚製作所)
- 1946 11 バスポデー第1号車完成  バスポデー第1号車
- 02 日国工業(株)と改称、鉄道車両および自動車車体製作に転換
- 1941 07 日本航空工業(株)(昭和12年5月創立、当初資本金300万円)と国際工業(株)(昭和14年11月創立、資本金300万円)が合併し、日本国際航空工業(株)設立、資本金3,600万円、航空機製作
- 1939 04 中型双発旅客機(TK-3)試作第1号機完成
- 1937 05 日本航空工業(株)設立(資本金300万円)  中型双発旅客機(TK-3)試作第1号機

財務データ

数値は連結データ*を記載しています。
(百万円未満切捨て)

	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	565,822	558,600	602,882
営業利益	12,195	1,330	7,787
経常利益	12,709	1,756	8,174
純利益	8,223	△2,297	5,585

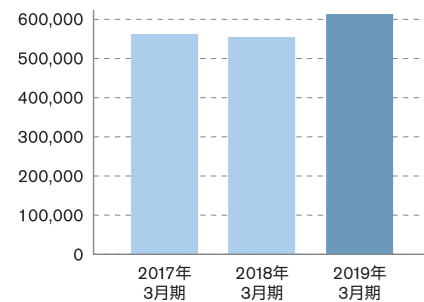
(単位：百万円)

■ 売上台数

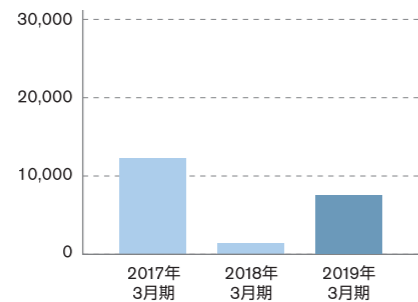
	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
乗用車	120,272	119,713	126,690
商用車	86,729	73,039	83,923
小型バス	23,330	19,446	19,288
計	230,331	212,198	229,901

(単位：台)

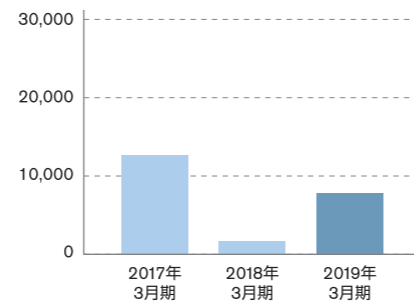
■ 売上高 (単位：百万円)



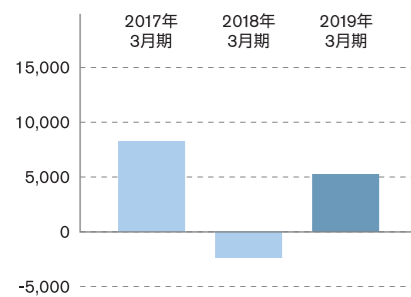
■ 営業利益 (単位：百万円)



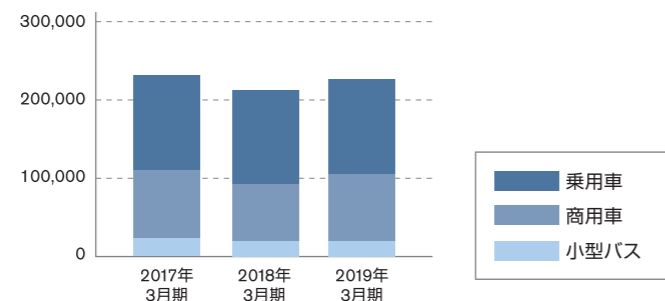
■ 経常利益 (単位：百万円)



■ 純利益 (単位：百万円)



■ 売上台数 (単位：台)



* 記載した数値は、連結子会社6社(日産車体九州㈱、日産車体マニファクチュアリング㈱、日産車体エンジニアリング㈱、㈱オートワークス京都、日産車体コンピュータサービス㈱、㈱プロスタッフ)を含みます。

関係会社の概要

日産車体マニファクチュアリング株式会社

日産車体のプレス部品の製造。

社名	日産車体マニファクチュアリング株式会社	従業員数	249名(2019年3月31日現在)
URL	http://ns-m.jp	事業内容	自動車部品の製造
設立	1956年10月31日	本社所在地	〒254-0021 神奈川県平塚市長瀬2番15号
資本金	4億32百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-21-8510
代表者	代表取締役社長 佐野 宗章		

日産車体エンジニアリング株式会社

日産車体および日産車体九州の設備保全と物流。

社名	日産車体エンジニアリング株式会社	従業員数	316名(2019年3月31日現在)
URL	http://www.ns-eng.jp	事業内容	1.生産設備、動力設備の企画・設計・製作・施工 2.金型の設計 3.生産設備、動力設備の維持管理 4.工場内物流サービス業務 5.物流機器
設立	1986年8月1日	本社所在地	〒254-0027 神奈川県平塚市堤町4-4
資本金	40百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-20-5372
代表者	代表取締役社長 羽田野 渡		

AWK 株式会社 オートワークス京都

マイクロバスとトラックの製造と特装車の架装。

社名	株式会社オートワークス京都	従業員数	229名(2019年3月31日現在)
URL	http://www.awk.co.jp	事業内容	マイクロバス、小型トラックの製造 各種自動車の架装・整備等
設立	2001年3月12日	本社所在地	〒611-0033 京都府宇治市大久保町西ノ端1番地1
資本金	480百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0774-46-7063
代表者	代表取締役社長 青地 潔		

日産車体コンピュータサービス株式会社

情報システム構築、保守運用サービス等を提供する総合的なコンピュータサービス。

社名	日産車体コンピュータサービス株式会社	従業員数	218名(2019年3月31日現在)
URL	http://www.ncs-net.co.jp	事業内容	1.アプリケーションシステム開発 2.システム保守・運用 3.アウトソーシング
設立	1987年1月1日	本社所在地	〒254-0042 神奈川県平塚市明石町2番20号
資本金	100百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-22-7760
代表者	代表取締役社長 大野 真也		

株式会社 プロスタッフ

人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング。

社名	株式会社プロスタッフ	従業員数	177名(2019年3月31日現在)
URL	http://www.pro-staff.co.jp	事業内容	1.一般労働者派遣業 2.民間職業紹介・人材紹介 3.アウトソーシング
設立	1987年8月1日	本社所在地	〒254-0031 神奈川県平塚市天沼9-10 日産車体天沼ビル1F
資本金	90百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-23-7750
代表者	代表取締役社長 矢作 幸一		